

Hokkaido University News

北大時報

平成31年

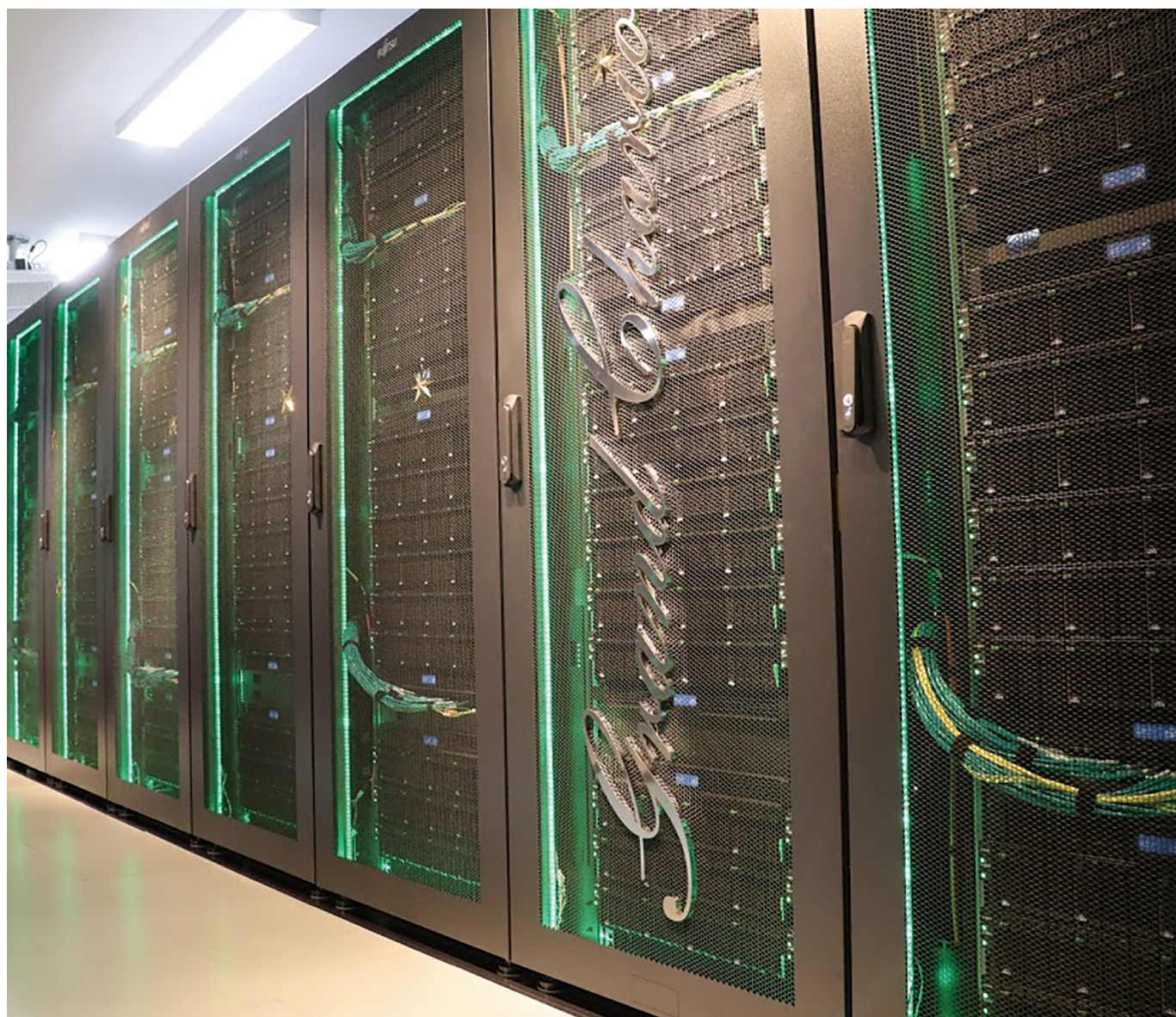
2

No. 779 February 2019

経済学研究院 韓 載香准教授にサントリー学芸賞
北海道大学一般入試の志願状況

お知らせ

・ 過半数代表候補者の決定



■ 全学ニュース

- 1 経済学研究院 韓 載准教授がサントリー学芸賞を受賞
- 2 北海道大学一般入試の志願状況
- 3 AO入試合格者の発表
- 3 国際総合入試合格者の発表
- 4 北大フロンティア基金
- 6 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業
高校生に向けた講義を実施
- 7 情報科学研究科の学生がセイコーマート北海道大学店で
ロボット同士の会話の実証実験を実施
- 8 平成30年度冬季国際交流会～つながる、Connect～を開催
- 9 SDGs x北海道交流セミナー（北海道主催）で本学の活
動発表

■ 部局ニュース

- 10 新学際大規模計算機システム運用開始記念式典を挙行政
- 11 大学の世界展開力強化事業（インド）の教育交流研究会
を開催
- 12 経済学部及び会計専門職大学院で特別講演会を開催
- 13 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」
を開催
- 13 地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催
- 14 国際食資源学院でFD研修会を開催
- 15 北海道大学病院で経営マインド育成講座を開催
- 15 附属図書館で講演会「情報発信の新たな展開に向けて
～デジタルアーカイブの構築とIIIF～」を開催
- 16 植物園で防火訓練を実施



経済学研究院韓准教授がサントリー学芸賞を受賞



平成30年度冬季国際交流会

■ お知らせ

- 17 過半数代表候補者の決定

■ 諸会議の開催状況 18

■ 学内規程 19

■ 表敬訪問 19

■ 人事 19

■ 訃報

20 名誉教授 前田 辰昭 氏

20 名誉教授 斎藤 勝政 氏



大学の世界展開力強化事業（インド）教育
交流研究会



農学院・農学研究院・農学部
留学生新年会を開催



国際食資源学院
FD研修会を開催



植物園で防火訓練を実施

表紙：新学際大規模計算機システム運用開始記念式典を挙行政（関連記事10頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑦ 特急北斗，一瞬の邂逅

■ 全学ニュース

経済学研究院 韓 載香准教授がサントリー学芸賞を受賞



今回の受賞者



受賞式の様子

12月10日（月）、経済学研究院の韓載香准教授に、公益財団法人サントリー文化財団よりサントリー学芸賞（政治・経済部門）が授与されました。

この賞は、毎年、前年1月以降に出版された著作物を対象に選考し、広く社会と文化を考える、独創的で優れた研究、評論活動をされた方に対し贈呈される賞であり、今回が第40回目となります。

韓准教授の著作『パチンコ産業史―周縁経済から巨大市場へ』（名古屋大学出版会、2018年）は、「本書のオリジナルなところは、多くの人がパチンコ産業は特殊な産業だと思っている中で、規制への制度的対応、技術革新と規制の関係、新しいビジネスモデルの開発という、どの産業にも普遍的な枠組みで分析しているところである。

（中略）著者は、（中略）入手困難なデータを入手し、インタビューを行い、パチンコ業界という特殊な産業の歴史を経済学的に分析」としてと評価（大阪大学の大竹文雄教授、「選評」より）され、今回の受賞に至りました。

韓准教授は、1971年大韓民国・ソウル特別市に生まれ、2001年京都大学大学院経済学研究科修士課程を修了し、2004年東京大学大学院経済学研究科博士課程を修了しました。その後、東京大学大学院経済学研究科特任准教授等を経て、2012年に本学経済学研究科准教授に着任されました。

パチンコ産業は、在日韓国・朝鮮人の労働市場での差別的状況と関連付けられた見方が固定化する一方で、巨大な市場を持つ産業に発展したことについては、脱税や暴力団との関連など、地下経済に括られる活動から漠然と理解されてきました。駅前、繁華街、商店街、郊外など、日本のどこでも見られるパチンコホールですが、この産業の歴史は、不明な点が多く残されていました。同書は、韓准教授が産業存続の基盤に注目して実証的根拠を与えつつ、巨大市場への成長過程の解明を試みたものとなっています。

パチンコというサービスと機械を持続的に提供する仕組みは、どのように確立したのでしょうか。第一に、ホール事業は、初期においては計算可能性に欠ける不安定なビジネスでしたが、

射幸性の規制と換金システムの整備が条件となり、安定的な収益基盤を得ることになりました。これらは、パチンコ産業が存続する基礎という意味で、産業発展の重要なエポックを作った契機です。第二に、流行や人気の不確実性による高い開発リスクという問題に対して、パチンコ機械のメーカーは、開発及び生産設備のシェアリングや特許の相互利用に関する企業間関係を築いて対応しました。このような仕組みにより、消費者を飽きさせない機械が持続的に提供され、巨大市場を作り出した革新的機械が発明されました。

以上のように、パチンコ産業の発展は、規制や組織化のもとで地下経済のような性質から脱皮し、持続可能な基盤を築くことによって成し遂げられました。

今後、韓准教授が試みた先入観なく事実に接近した説明が社会のより深い歴史認識に繋がることを期待すると同時に、提示された産業分析の枠組みが他産業の研究に貢献することを願っています。

（経済学研究院）

北海道大学一般入試の志願状況

平成31年度の本学一般入試の志願者は、前期日程5,843名、後期日程4,498名、合計10,341名となり、昨年度と比較すると492名増加し、倍率は4.3倍となりました。志願者が10,000名を超えるのは、平成26年度入試以来、5年振りです。

入学試験日は、前期日程が2月25日（月）・26日（火）、後期日程が3月12日（火）となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

（学務部入試課）

平成31年度北海道大学一般入試志願者数

日程	学部・学科等		募集人員	志願者数	倍 率	第一段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度 倍率	ＡＯ入試・国際 総合入試の欠員	変更後の 募集人員	変更後の 倍率			
前期日程	総合入試	文系	95	278	2.9	4.0	398	4.2	2	97	2.9			
		理系	数学重点選抜群	129	494	3.8	4.0	529	4.1	0	129	3.8		
			物理重点選抜群	233	701	3.0	4.0	663	2.8	1	234	3.0		
			化学重点選抜群	233	624	2.7	4.0	704	3.0	1	234	2.7		
			生物重点選抜群	175	465	2.7	4.0	469	2.7	1	176	2.6		
			総合科学選抜群	247	672	2.7	4.0	615	2.5	1	248	2.7		
		計	1,017	2,956	2.9		2,980	2.9						
	学部別入試	文学部	118	463	3.9	4.0	321	2.7						
		教育学部	20	67	3.4	4.0	49	2.5						
		法学部	140	420	3.0	4.0	352	2.5						
		経済学部	140	378	2.7	4.0	390	2.8						
		医学部	保健学科	医学科	97	307	3.2	3.5	341	3.5	5	102	3.0	
				看護学専攻	60	147	2.5	5.0	174	2.9	1	61	2.4	
					放射線技術科学専攻	28	75	2.7	5.0	100	3.6			
					検査技術科学専攻	28	76	2.7	5.0	98	3.5			
					理学療法科学専攻	13	42	3.2	5.0	33	2.5			
					作業療法科学専攻	13	68	5.2	5.0	52	4.0			
					小 計	142	408	2.9		457	3.2			
				計	239	715	3.0		798	3.3				
		歯学部	30	107	3.6	6.0	117	3.9	0	30	3.6			
		獣医学部	20	113	5.7	6.0	104	5.2						
		水産学部	105	346	3.3	4.0	324	3.1				3	108	3.2
		合 計		1,924	5,843	3.0		5,833	3.0					
後期日程	学部別入試	文学部	37	318	8.6	6.0	305	8.2						
		教育学部	10	122	12.2	10.0	105	10.5						
		法学部	40	406	10.2	6.0	334	8.4						
		経済学部	20	220	11.0	10.0	157	7.9						
		理学部	数学科	13	121	9.3	6.0	115	8.8					
			物理学科	10	125	12.5	6.0	103	20.6					
			化学科	23	177	7.7	6.0	238	10.3					
			生物科学科 生物学専修分野	10	82	8.2	6.0	84	8.4					
			生物科学科 高分子機能学専修分野	5	56	11.2	6.0	50	10.0					
			地球惑星科学科	5	66	13.2	6.0	80	16.0	0	5	13.2		
		計	66	627	9.5		670	11.0						
		保健学科	放射線技術科学専攻	7	47	6.7	6.0	63	9.0					
			検査技術科学専攻	7	96	13.7	6.0	61	8.7					
			理学療法科学専攻	4	31	7.8	6.0	30	7.5					
		計	18	174	9.7		154	8.6						
		歯学部	8	174	21.8	6.0	109	13.6						
		薬学部	24	241	10.0	6.0	239	10.0						
		工学部	応用理工系学科	34	282	8.3		224	6.6	3	37	7.6		
			情報エレクトロニクス学科	38	330	8.7		309	8.1					
			機械知能工学科	30	265	8.8		270	9.0					
			環境社会工学科	49	415	8.5		341	7.0	4	53	7.8		
		計	151	1,292	8.6		1,144	7.6						
		農学部	53	408	7.7	6.0	369	7.0						
		獣医学部	15	117	7.8	6.0	93	6.2						
		水産学部	50	399	8.0	6.0	337	6.7						
		合 計		492	4,498	9.1		4,016	8.2					
	総 計		2,416	10,341	4.3		9,849	4.1	22	2,438	4.2			

AO入試合格者の発表

平成31年度AO入試のうち、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表が2月12日（火）に行われ、11名が合格しました。

昨年12月11日（火）に合格者発表が行われた理学部、歯学部及び水産学部と合わせ、合格者数は38名となりました。

（学務部入試課）

平成31年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等			募集人員	志願者数	倍 率	合格者数
理学部地球惑星科学科			5	20 (5)	4.0	5 (2)
医学部	医学科		5	2	0.4	0
	保健 学科	看護学専攻	7	17 (8)	2.4	6 (3)
		作業療法学専攻	4	6 (2)	1.5	4 (1)
歯学部			5	16 (5)	3.2	5 (1)
工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)		4	3	0.8	1
	環境社会工学科 (社会基盤学コース)		4	1	0.3	0
水産学部			20	43 (4)	2.2	17 (3)
計			54	108 (24)	2.0	38 (10)

※ () 内の数字は、道内高校出身者で内数

国際総合入試合格者の発表

平成31年度国際総合入試のうち、条件付合格者（国際バカロレア資格の取得を条件として合格していた者）の最終合格発表が2月12日（火）に行われ、6名が合格しました。

昨年12月11日（火）に発表された合格者と合わせ、最終合格者は9名となりました。

（学務部入試課）

平成31年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	4 (3)	0.8	3 (2) [2 (1)]	3 (2)
	理系	10	13 (8)	1.3	8 (5) [6 (3)]	6 (4)
計		15	17 (11)	1.1	11 (7) [8 (4)]	9 (6)

※ () 内の数字は、女子で内数

※ [] 内の数字は、条件付合格者数で内数

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（1月31日現在）

23,625件 4,728,640,456円

1月のご寄附状況

法人等8社、個人名の676名の方々から31,745,336円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社MATコンサルティング、株式会社開発調査研究所、手稲溪仁会病院新生児蘇生法講習会、日本信号株式会社、医療法人社団北海道健診センタークリニック、株式会社ムトウ

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	秋元 博	浅野 哲也	荒井 修	池田 弘	石井千枝子	石井 寛	石渡 輝夫
伊藤 正朗	今井 敏夫	入澤 秀次	臼井 茂雄	大西 勝憲	大原 正範	小木 聡	小田代政美
小田原一史	小内 透	小柳 毅	金岡 優	金川 眞行	河本 充司	川本真奈美	菊地 敬夫
木全 重之	工藤 俊哉	黒島 和男	小菅 高之	小砂 憲一	小林 祥一	斉藤 久	斉藤 義幸
坂本 大介	佐藤 克哉	佐藤 修二	三升畑元基	志済 聡子	白尾 誠二	神保 重孝	菅原 賀子
杉江 和男	鈴木 貴之	瀬名波栄潤	高須 祐子	高橋 秀一	高橋 均	田島 邦好	田代一三夫
千葉 等	塚原 洋輝	傅 暁	土家 琢磨	土屋 裕	常泉 竜太	円谷 元彦	寺澤 睦
戸田 純子	富山 三良	豊田 威信	長島 郁夫	中塚 英俊	中野 平	中屋 尚久	新田 義英
花田 太郎	花田 慶男	浜野 哲男	林 倫太郎	ヒロセユカリ	福島 義光	福永 悟郎	藤井 聡
藤井ひとみ	藤川 晃成	藤嶋 浩	坊垣 暁之	前田 博	政氏 伸夫	松沢 幸一	松原 謙一
皆川 一志	宮田 信幸	村上 幸夫	村守 清	安田 強	山内 俊雄	山口 信一	山口 裕樹
山下 勇	山下 憲昭	山下 裕久	山田 立哉	横井 成尚	横山 考	吉田 広志	

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人）

株式会社開発調査研究所、手稲溪仁会病院新生児蘇生法講習会、医療法人社団北海道健診センタークリニック

（個人）

小田代政美、黒島 和男、佐藤 修二、田島 邦好、千葉 等、傅 暁、土屋 裕、花田 太郎、花田 慶男、藤井 聡、藤井ひとみ、藤嶋 浩、山内 俊雄

感謝状の贈呈



小野薬品工業株式会社 様(平成31年1月28日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（北海道大学 百年記念会館内・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業 高校生に向けた講義を実施

10月より本格的に始動した、今年度の「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業、通称“ACADEMIC FANTASISTA”。1月に実施した3名の参加教員による高校での出張講義の様子をお届けします。

(総務企画部広報課)

未来の放射線治療～体内を見ながら体外からがんを狙い撃つ～

清水伸一教授の所属するプロジェクトでは、「動体追跡陽子線治療」と呼ばれる放射線治療法を開発し、がん治療による体の負担を極限まで小さくする研究に取り組んでいます。金マーカーによる動体追跡照射技術と、陽子線スポットスキャン技術とを融合した治療装置は、世界ではじめて北海道大学病院に設置され、「切らずに・短時間で・ピンポイントに」がんを治療できるようになりました。日本は唯一の被爆国であり、放射線に抵抗を感じる人も少なくありませんが、同じ放射線でも適切に使用すれば人を救うこともできるのです。生徒からは、「とてもためになりました。誤解していた部分もあったので正しい知識を得られて良かったです」などの感想がありました。



放射線治療について説明する清水教授

■日 時：1月16日（水）14:30-15:20

■会 場：立命館慶祥高等学校

■参加生徒：1年生338名

■講師：清水伸一（医学研究院 教授）

動物の難治性疾病（がん・感染症）に対する創薬研究（新薬の開発）

今内 覚准教授は、牛の感染症、犬や猫のがんなど、動物の難病に効く新薬の実用化を目指しています。本庶 佑教授のノーベル賞受賞で話題となった「免疫チェックポイント阻害剤」については、企業との共同研究で牛や犬の臨床研究の段階にまで進んでいます。獣医学部の特色を紹介した後、獣医師という仕事の幅広さや、自身の創薬研究についてレクチャーがありました。アフリカや北海道の山奥での壮絶なサバイバル調査の経験を笑いを交えて披露し、生徒からは、「とても充実した時間でした。治療することをメインで考えていましたが、薬の研究にもとても興味が湧きました」などの感想がありました。



質問に答える今内准教授

■日 時：1月25日（金）15:45-17:30

■会 場：北海道小樽潮陵高等学校

■参加生徒：1, 2年生8名

■講師：今内 覚（獣医学研究院 准教授）

磁石の力で脳の病気を見える化する

様々な病気の画像診断法を研究している、工藤與亮診療教授による二度目の講義は、出身校の北海道札幌北高等学校で実施しました。強力な磁石と電磁波で体内を画像化するMRIを使い、鉄沈着の計測方法や人体に無害な新しい診断薬の開発なども行っています。参加した生徒からは、「専門的な知識もわかりやすく教えていただけたので、全く飽きずに興味を持って聞くことができた」「医師という職業の魅力を改めて感じた。また、『人を救う』という場所に多様な職種の人に関わっているという部分から自分も何らかの形で関わりたいと思った」などの感想がありました。

- 日 時：1月31日（木）15:50-17:20
- 会 場：北海道札幌北高等学校
- 参加生徒：1, 2年生20名
- 講 師：工藤與亮（北海道大学病院 診療教授）



MRIについて解説する工藤診療教授

情報科学研究科の学生がセイコーマート北海道大学店でロボット同士の会話の実証実験を実施

情報科学研究科の大学院生が開発した、種類の異なるロボット同士の会話を実現させるソフトウェアによる実証実験が、セイコーマート北海道大学店において実施されます。本ソフトウェアは、情報科学研究科修士課程1年の水丸和樹氏が、経済産業省・独立行政法人情報処理推進機構（以下「IPA」）の未踏IT人材発掘・育成事業^{*}の支援を受けて開発したものです。

小売店への会話型ロボットの設置は、販売促進や親しみやすい店舗づくりに役立つ可能性を秘めていますが、一台のロボットによる一方的な発声では効果が限定的であり、かといってヒト（顧客）とロボットの間で自然な会話を実現することは技術的に容易ではありません。

そこで水丸氏は、経済産業省・IPAの未踏IT人材発掘・育成事業の支援

を受け、種類の異なるロボット同士の会話を実現させるソフトウェアを開発しました。しかし、このソフトウェアを実用化するためには、ITの専門家ではない店員でも会話内容を簡単にカスタマイズできる必要があります。また、ロボット同士の会話が実際に商品PRに寄与するか検証することも必要です。

そのため、北海道大学と株式会社セコマが平成30年4月に締結した地域創生連携協定に基づき、経済産業省北海道経済産業局の協力を得て、以下のとおり実証実験を実施します。セイコーマート北海道大学店へお越しの際には、ぜひロボット同士の会話に耳を傾けてください。

日時：平成31年2月28日（木）～
3月6日（水）各日10時～18時

場所：セイコーマート北海道大学店
（札幌市北区北11条西7丁目）

内容：ソフトバンクロボティクス[®]の感情をもったパーソナルロボット Pepper及びSota（ソータ）各1台を店舗に設置し、商品PR等について会話を行う。セイコーマート北海道大学店の店員による操作性の確認と、来店者数や商品PRへの影響の検証を行う。

^{*}未踏IT人材発掘・育成事業

経済産業省所管であるIPAによる、「突出したIT人材の発掘と育成」を目的とした事業です。ITを活用して世の中を変えていくような、日本の天才的なクリエイターを発掘し育てることを目指しています。2018年度は全国から21件が採択され、そのうち2件が北海道大学の学生です。

（情報科学研究科・総務企画部広報課）

平成30年度冬季国際交流会～つながる，Connect～を開催



参加者集合写真

1月16日（水），北大生協北部食堂において，学務部学生支援課主催による平成30年度冬季国際交流会を開催しました。

この行事は，留学生及び日本人学生の国際交流の機会を提供し，本学での学生同士の繋がりをより強めることを目的に実施するもので，41の国や地域の学生から申込みがあり，当日は新渡戸カレッジ生を中心とした日本人学生ボランティアとHUSTEPの外国人留学生ボランティア9名を含めた約200名の参加がありました。

ミシェル・ラフェイ・ケイ総長補佐の挨拶の後，同総長補佐，司会の大原吉将さん（総合教育部1年），Awoke Richmond Johnsonさん（医学部特別

聴講生）による乾杯の発声で開会しました。

食事担当の学生ボランティアは参加者が宗教に関わらず料理を食べられるよう事前に北部食堂のスタッフと打ち合わせを行い，会場装飾担当の学生ボランティアは落書きコーナーを会場の柱に設け，ステージに本学ロゴマーク入りのバックパネルを設置したほか，風船や造花で会場を華やかに飾り付けました。

会の中盤では留学生に人気のヒューマンビンゴを行い，互いに質問し合いながらゲームをクリアした参加者が賞品の北大グッズを受け取って，バックパネルの前で記念撮影を行いました。学生らは互いに連絡先を交換し，本学

での新しい友人づくりを楽しみました。

この交流会は日本人や外国人留学生から公募した学生ボランティアが企画・運営をしています。交流会終了後の反省会では，留学生のパフォーマンスを行い，より国際的な会にしたい等，次回の交流会に向けた運営の改善点などを含む前向きな意見が寄せられました。

今回は6月の実施を予定しており，学生の運営ボランティアや，さらに多くの参加者が集まることを期待しています。

（学務部学生支援課）



ラフェイ総長補佐（中央右）による挨拶



催し物担当の松澤さん（左）とヒューマンビンゴの景品を受け取る参加留学生（右）



交流する参加者の様子

SDGs x北海道交流セミナー（北海道主催）で本学の活動発表

2月3日（日）、かでの2.7大会議室において、「SDGs x北海道交流セミナー」（北海道主催）が開催されました。本学からは、先端生命科学研究院及びサステナブルキャンパスマネジメント本部が参加し、持続可能な社会の構築に貢献する本学の幅広い活動をポスター展示・資料配布で発表しました。

2030年までの国連アジェンダ・持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みは、地域社会でも広がりを見せています。北海道はSDGsの取り組みの裾野を拡大していくため、「北海道SDGs推進ネットワーク」の会員登録を2018年8月から開始し、12月に「北海道SDGs推進ビジョン」を策定しました。本セミナーは、北海道の取り組みの周知とともに、参加会員相互の意見

交換や連携・協働関係の構築の場となるよう開催されたものです。

本学は2005年に「持続可能な開発」国際戦略を策定し、2007～2017年に北大サステナビリティ・ウィークを毎年開催してきました。この間、2008年には国内外27の大学・機関による世界初の「G8大学サミット」のホスト校となり、「大学は持続可能な社会実現のための原動力となる」と誓いました（札幌サステナビリティ宣言）。2026年に至るまでの「北海道大学近未来戦略150」にも持続可能な社会実現への戦略が活かされ、「学外との連携・協働により、知の発信と社会変革の提言を不断に行い、国内外の地域や社会における課題解決、活性化及び新たな価値の創造に貢献する」としています。

今回の交流セミナーには、企業・行政・団体・教育機関など約100名が参加し、18件のポスター発表がありました。本学のポスターでは、SDGsを学ぶ・研究する・人材育成する教育研究組織やプログラムとともに、人が憩い・生きものが集うキャンパスの保全や、学生・教職員のSDGsに向けた取り組みなど、地域に開かれたサステナブルキャンパスの取り組みを紹介しました。今回の参加によってSDGsに寄与する本学の活動への理解が地域に広がり、各部局等のSDGs関連活動と地域連携がさらに促進されることが期待されます。

（先端生命科学研究院・サステナブルキャンパスマネジメント本部）

■ 部局ニュース

新学際大規模計算機システム運用開始記念式典を挙



テープカットの様子

(左より 山本会長、関 靖直理事・事務局長、笠原理事・副学長、高井センター長、坂下室長、皆川一志理事)



スーパーコンピュータ Grand Chariot
(グラン・シャリオ：サブシステムA)

情報基盤センターでは、スーパーコンピュータシステムとインタークラウドシステムから構成される「学際大規模計算機システム」を更新し、昨年12月に新システムによるサービスを開始したことに伴い、1月10日（木）に、「北海道大学新学際大規模計算機システム運用開始記念式典」を開催しました。

本学学術交流会館において行われた記念式典には、学内外の関係者49名が列席し、高井昌彰情報基盤センター長による式辞、笠原正典理事・副学長の挨拶の後、坂下鈴鹿文部科学省研究振興局計算科学技術推進室長、山本正已富士通株式会社取締役会長から祝辞が述べられました。

引き続き、情報基盤センターの棟朝雅晴教授及び岩下武史教授から概要説

明が行われ、新システムは、本学における学術情報基盤を集約し、全国共同利用・共同研究による国内外の研究者を支援する基幹システムで、世界ランキング95位の高性能スパコン及びベアメタル（物理サーバ）中心の高性能クラウドにより現行システムの約20倍の総合演算性能を有すること、北海道から九州に至る広域分散のインタークラウド環境をパッケージ化して提供し、広域ネットワーク・分散システム関連研究を支援していること、ペタバイト級のストレージ及び遠隔バックアップにより、研究データの長期保存への対応を行っていること等が紹介されました。

会場を情報基盤センター北館に移し、来賓及び役職員6名により新シス

テム運用開始のテープカットが行われました。続いて、新システムの見学が行われ、各マシン等についての説明があり、冷却装置では従前の空冷式に加え、より効率的な水冷式も導入されていることなどが紹介されました。

新システムへの更新にあたっては、利用者の負担金を抑えることにも注力されており、本学及び全国の多くの学生や若手を含めた多くの研究者にとって利便性の高いものとなっています。今後は、研究データ、プログラム、システムの共有、活用によるネットワーク効果、全国規模での連携及び情報共有などにも寄与していくことが期待されています。

(情報基盤センター)



式辞を述べる高井情報基盤センター長



挨拶する笠原理事・副学長



祝辞を述べる坂下文部科学省室長



祝辞を述べる山本富士通取締役会長



クラウドについて説明する棟朝教授



スパコンについて説明する岩下教授

大学の世界展開力強化事業（インド）の教育交流研究会を開催



参加者集合写真

工学院・工学研究院・工学部では、1月10日（木）、工学部L棟L200教室において、「持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成（STSI）プログラム^{*}」の教育交流研究会を開催しました。

当日は、大学の世界展開力強化事業にてインドとの交流を先行実施している東京大学より渡邊 聡教授、北陸先端科学技術大学院大学より前田一之国際交流課長をお招きし、STSIプログラム事業推進責任者の小林幸徳工学院長、工学研究院の高橋航圭准教授、ラワンカル・アンキット助教とともに、インドとの教育交流の成果や課題の報告を行いました。

本研究会には、大学関係者に加えて、STSIプログラムに関心のある企業5社からも参加がありました。各企業の参加者には、インドでの事業展開や日本での人材受入の現場での課題等

について説明いただき、産業界も含めた日印での人材育成について、活発な意見交換の場となりました。

また、同日、本プログラム派遣学生によるインターンシップ報告会も開催しました。平成30年9月から12月にかけての約3か月間、インド工科大学ボンベイ校、マドラス校でインターンシップを行った本学学生3名が、研究の成果と滞在経験を発表し、研究会参加者をはじめ、TV会議システムで参加した派遣先指導教員や、今後派遣予



STSIプログラム教育交流研究会の様子

定の学生からの質問に熱心に答えていました。

研究会参加者からは、今後もこのような機会を求める声が相次ぎ、産学連携コンソーシアムの形成に向けて、有意義なイベントとなりました。

^{*}持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成（STSI）プログラム

インド工科大学ハイデラバード校、ボンベイ校、マドラス校と連携し、インドにおける輸送システムと社会インフラ構築に関わる種々の課題について、日印の学生がチームを作り問題解決に取り組む際、その成果を最大化できるような能力を有する人材の育成を目指す国際教育連携プログラム。平成29年度文部科学省補助金事業「大学の世界展開力強化事業（インド）」に採択されている。

（工学院・工学研究院・工学部）



学生によるインターンシップ報告会の様子

経済学部及び会計専門職大学院で特別講演会を開催

経済学部及び会計専門職大学院では、金融庁企画市場局企業開示課課長補佐の高橋敦子氏による「コーポレートガバナンスと会計監査をめぐる最近の動向」と題する特別講演会を、1月8日（火）に文系共同講義棟1番教室において開催しました。

企業開示課は、企業内容等に係る開示制度及び公認会計士制度の企画・立案、企業会計の基準及び監査基準の設定等、上場企業を対象とする会計・監査制度を所掌しています。会計学や会計監査論を受講する学生にとっては、授業内容との関連が深い業務を行う部署です。

この講演では、コーポレートガバナンス改革の動向として、2018年に改訂が行われた「コーポレートガバナンス・コード」について、取締役会の機能や政策保有株といった重要なポイン

トの説明がなされました。

また、金融商品取引法の下での企業情報開示の充実、国際財務報告基準への対応、さらには会計監査の信頼性確保に向けた取り組みなど、コーポレートガバナンスの改革と切り離せない事項についても具体的に説明されました。

経済学部の会計監査論の受講者をはじめとして、会計専門職大学院の学生や学外からの参加者を含めたおよそ80名が、実際に日本の会計制度を策定す



会場の様子

る立場にある方のお話を熱心に聴講していました。

経済学部・会計専門職大学院では、今後も金融庁や北海道財務局との連携を密にしながら、こうした講演会などを開催していきたいと考えています。

（経済学院・経済学部）



講演する高橋氏

農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催

第33回留学生主催の新年会が、1月11日（金）に農学部の大講堂で開催されました。このイベントは毎年開催されており、参加者が各国の料理や余興を楽しみながら新年を祝い、留学生との会話を通して異国の文化を理解し、学ぶ場となっています。

今年は7ヶ国（中国、韓国、インドネシア、タイ、バングラデシュ、ベトナム、スリランカ）の留学生69名が各国の名物料理を作り、参加者に提供しました。スリランカ料理が振る舞われたのは今回がはじめてでした。後半には、5ヶ国の留学生の歌や踊りが披露されました。特に、インドネシアの女子留学生8名によるアチェ地方の民族舞踊「ラト ジャロー舞踊」は、一列になって入場した踊り子がひざをついて座り、手や腕を上下左右に目にもとまらぬ早さで動かすダンスで、迫力のあるパフォーマンスにより、会場は大いに盛り上がりました。

今年は農学院・農学研究院・農学部の教職員・学生179名が参加し、各国の料理や余興を楽しみながら、留学生

と交流しました。

（農学院・農学研究院・農学部）



ベトナムからの留学生



スリランカからの留学生



インドネシアからの留学生によるラト ジャロー舞踊



中国からの留学生

地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催

地球環境科学研究院・環境科学院では、1月10日（木）に「安全衛生FD研修会」を、環境科学院講義室において開催しました。本研修会は、安全衛生の向上に資する啓発活動の一環として、初めて開催したものです。

当日は、本研究院・学院等の教職員と学生51名の参加のもと、本学安全衛生本部副本部長である理学研究院の澤村正也教授を講師に招き、「研究室マネジメントの基礎としての安全衛生」と題して、講演を行っていただきました。

最初に、大原 雅地球環境科学研究院長・環境科学院長から冒頭の挨拶があり、次に澤村教授の講演では、「地

震への備え」「実験室の安全衛生自主管理（安全教育の大切さ、防火対策）」「野外活動中の事故」及び「ライフサイエンス系実験」の4部構成で、実際発生した事例などを交え、大変わかりやすく説明していただきました。続いて、活発な質疑応答が交わされ、

充実した研修会となりました。

本研究院・本学院では、今後も安全衛生の向上を図るため、様々な活動に取り組んでいく予定です。

（地球環境科学研究院・環境科学院）



大原研究院長・学院長による挨拶



講演する澤村教授

国際食資源学院でFD研修会を開催

国際食資源学院では、1月24日（木）に、厚生労働省小樽検疫所 検疫衛生課長西浦知子氏を迎え、FD研修会を開催しました。西浦氏は、国内外の感染症と感染症対策に詳しい医師で、研修テーマは、「海外渡航時の感染症対策」でした。

国際食資源学院では、所属大学院生や教員がワンダーフォーゲル実習や共同研究における海外の現地調査などで、感染症発生地域に赴く機会が数多くあります。そのため、事前の予防接種や現地での対策のほか、発熱などの症状があった場合の帰国後の対策を知っておく必要があり、西浦氏に講演を依頼することになりました。

当日は農学研究院を含む教員21名及び事務職員2名が出席し、1時間とい

う短い時間でしたが、はじめに井上京国際食資源学院長からFD研修の趣旨説明を行った後、西浦氏からご講演いただきました。

まず、旅の形態によるリスクについて、開発途上国の田舎に長期でフィールドワークに出る場合は、特にリスクが高いことが述べられました。続いて、事前の情報収集先として、厚生労働省や外務省、国立国際医療研究センターのホームページが紹介されました。予防接種は、渡航先別に検討し、トラベラーズワクチンを接種する際は、接種できる機関が限られている場合もあることから、余裕を持ったスケジュールを組むことの重要性を教えてくださいました。一方、定期予防接種については、例えば風疹であれば

30-50歳男性の抗体保有率が低いことが分かっていることなど、性別や年代によって接種率が異なることが抗体保有状況から示されました。最後に、デング熱、マラリア、A型肝炎、狂犬病、黄熱の流行地や発生状況を教えていただき、防蚊対策には、DEET（ディート）やピカリジンの入った防虫剤が紹介されました。

質疑応答では、マダガスカルでのペスト流行など、最新の情報も提供され、常に感染症対策を怠らないよう、渡航者の自覚を促す大変有意義な時間となりました。講演者の西浦氏には、大変分かりやすくご説明いただき、感謝申し上げます。

（国際食資源学院）



井上学院長からの挨拶



講師の西浦氏



研修会の様子

北海道大学病院で経営マインド育成講座を開催

北海道大学病院では、1月11日（金）、医学部臨床講義棟臨床大講堂において、本院経営委員会主催の経営マインド育成講座として株式会社日立製作所の矢野和男氏を講師に迎え、講演会を開催しました。

矢野氏は現在、株式会社日立製作所フェロー兼未来投資本部ハピネスプロジェクトリーダーの役職を持ち、多目的AIの開発やハピネスを定量化するセンサーの開発で先導的な役割を果たされています。

講演は「人工知能はビジネスをどう変えるか～人の幸せのためのテクノロジー」

というテーマで行われ、ウェアラブルセンサーが検知する「動き」から測定される「ハピネス」の定量化、無意識の行動の多様性と幸福度の関係、「ハピネス」の高い組織は生産性が高いこと、などの多くの知見とともに、人工知能は人を幸せにし、かつ社会の多様性を育成するテクノロジーであることが示されました。

本講座に参加した本院の医師や看護師ら医療スタッフ約80名は約1時間の講演に熱心に耳を傾け、講演後の質疑応答では、「ディープラーニングに推論を加えた“より人間に近い”人工知

能は開発されるか」「人工知能の実用化など今後の研究開発の発展の見通し」「人工知能に新たな発明・創造は可能か」など活発な議論が展開されました。

最後に寶金清博病院長より、医療分野への人工知能の導入の節目の時期である今、第一人者のお話を聞く貴重な機会となったことへの謝辞が述べられ、本講座が終了しました。今回の講座は多くの医療スタッフにとって大変充実したものとなりました。

（北海道大学病院）



講演する矢野氏



活発な質疑応答



寶金病院長による挨拶

附属図書館で講演会「情報発信の新たな展開に向けて～デジタルアーカイブの構築とIIIF～」を開催

1月23日（水）、附属図書館本館大会議室にて、講演会「情報発信の新たな展開に向けて～デジタルアーカイブの構築とIIIF～」を開催し、本学の教職員のほか学外の研究者等30名の参加がありました。

デジタルアーカイブによる資料の公開はこれまでも多くの機関で取り組まれてきましたが、利活用の促進や資金

調達等、様々な課題を抱えています。

本講演会では、ハワイ大学マノア校図書館のバゼル山本登紀子氏から、所蔵コレクションのデジタル化プロジェクトの実例について、人文情報学研究所人文情報学研究部門の永崎研宣氏から、デジタル画像へのアクセスを標準化し相互運用性を確保するための国際的な規格であるIIIF（トリプル・アイ

エフ）の解説とその導入事例についてご講演いただきました。

質疑応答では、「デジタル化資料の教育利用の事例」や「画像利用の際の権利処理について」等多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

（附属図書館）



バゼル氏



永崎氏



質疑応答の様子

植物園で防火訓練を実施

北方生物圏フィールド科学センター植物園では、1月28日（月）に、防火訓練を実施しました。

当園での防火訓練は、例年秋季に、重要文化財である博物館の玄関から出火したとの想定で実施していましたが、冬季の半年間は温室のみの公開となるため、本年度は初めて温室内で出火したとの想定で実施しました。例年と異なる新たな内容で実施するため、実際の火災を意識して企画を進めました。

当日は、火災受信機発報によって訓練が始まり、自衛消防隊長である園長・富士田裕子教授の指揮の下、副隊長以下の各班は、実際に火災が発生した際の自らの動きを確認しながら、自衛消防活動に取り組んでいました。火災想定現場では、企画段階で気付かなかった様々な問題が発見されました。訓練終了後には、富士田園長から「今回は初めて温室での火災を想定して実施したが、確認が必要である事項も新たに見つかった。当園は重要文化財等

が多く、火災自体が許される状況ではないので、その意識を持って日常業務を遂行願いたい」との講評があり、引き続き、実際に消火器を使用した消火実習を行いました。



出火点をいち早く見つけて初期消火を行う消火班



講評を行う富士田園長（中央右）と注意深く講評を聞く自衛消防隊員

植物園では、次年度以降も実際の火災を意識し、実態に即した訓練を企画・実施します。

（北方生物圏フィールド科学センター）



現場から自衛消防本部へ電話により報告する副隊長



消火実習で実際に消火器を操作する自衛消防隊員

■お知らせ

過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定しました。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分			過半数代表候補者	
教 員	文	系	(文学研究科)	瀬名波 栄 潤
	理 系	理 学 研 究 院	(理学研究院)	分 島 亮
		工学研究院・情報科学研究科	(工学研究院)	志 村 和 紀
		上 記 以 外 の 理 系	(農学研究院)	東 山 寛
	医	系	(医学研究院)	中 澤 祐 一
	附 置 研 究 所 ・ 研 究 セ ン タ ー 系		(低温科学研究所)	笠 原 康 裕
職 員 （ 教 員 を 除 く ）			(理学・生命科学事務部)	岡 坂 直 寛
			(触媒科学研究所)	下 田 周 平
			(学務部)	難波江 有 三
特任教員・契約・短時間勤務・嘱託職員			(総務企画部)	金 田 久 美
			(遺伝子病制御研究所)	山 口 桂

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成31年1月9日）

議 案・平成30年度内部統制システムモニタリング結果について

- ・平成30年度教育研究総長表彰について
- ・平成30年度教育研究支援業務総長表彰（貢献賞）について

協議事項・中期目標・中期計画の変更について

- ・全学運用教員の措置について
- ・クロスアポイントメント制度の改正について
- ・共同研究における経費の負担項目の改定について
- ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・大学院入学定員の充足状況について

- ・平成30年度補正予算（第2号）における運営費交付金追加計上予定額について
 - ・2019年度運営費交付金等（予定額）について
-

教育研究評議会（平成31年1月16日）

議 題・中期目標・中期計画の変更について

- ・クロスアポイントメント制度の改正について
- ・共同研究における経費の負担項目の改定について

報告事項・産業創出講座等の設置について

- ・寄附講座等の更新について
 - ・平成30年度補正予算（第2号）における運営費交付金追加計上予定額について
 - ・2019年度運営費交付金等（予定額）について
 - ・学生の懲戒について
-

経営協議会（平成31年1月18日）

議 題・中期目標・中期計画の変更について

- ・クロスアポイントメント制度の改正について

報告事項・平成30年度運営費交付金の追加配分について

- ・平成30年度補正予算（第2号）における運営費交付金追加計上予定額について
- ・2019年度運営費交付金等（予定額）について
- ・業務上の余裕金の運用に係る認定について

そ の 他・財務レポート2018について

役員会（平成31年1月21日）

議 案・中期目標・中期計画の変更について

- ・共同研究における経費の負担項目の改定について
- ・クロスアポイントメントの適用について

報告事項・平成30年度運営費交付金の追加配分について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■学内規程

国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程

(平成31年1月18日海大達第7号)

平成30年10月23日付けで、WPI対策室を廃止したことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学政府調達規程の一部を改正する規程

(平成31年1月22日海大達第8号)

平成31年2月1日付けで経済上の連携に関する日本国と欧州連合との間の協定が発効されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
31.1.11	高麗大学校（韓国）Jaeho Yeom学長	本学概要説明出席及び学内視察
31.1.17	オウル大学（フィンランド）Helka-Liisa Hentilä 副学長	両大学の交流に関する懇談



高麗大学校（韓国）Jaeho Yeom学長（左側）



オウル大学（フィンランド）
Helka-Liisa Hentilä 副学長（中央左）

(国際部国際連携課)

■人事

平成31年2月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【部局長・施設長等】 スラブ・ユーラシア研究センター長 (期間：平成33年1月31日まで)	仙 石 学	スラブ・ユーラシア研究センター教授

訃報

名誉教授 ^{まえだ たつあき} 前田 辰昭 氏
(享年90歳)



名誉教授 前田辰昭先生が平成30年12月18日にご逝去されました。

先生は、青森県にお生まれになり、昭和27年11月北海道大学函館水産専門学校遠洋漁業科を卒業後、同28年4月北海道大学水産学部助手に採用され、同44年9月講師、同49年4月助教授に昇任されました。昭和59年9月には「噴火湾およびその周辺海域におけるスケトウダラ成魚群の生態に関する研

究」によって水産学博士の学位を授与され、同60年4月教授に昇任、漁業学科漁場学講座を担当、平成4年3月定年により退職されました。この間、先生は多くの有為な人材を育成し、また北海道大学評議員、学科長を務められ、大学・学部の発展に尽力されました。

先生はかつて、全く不明であったベーリング海東部の海況と底魚の研究に着手し、とりわけスケトウダラ魚群の回遊に関する成果は、わが国遠洋漁業の発展に大きな役割を果たしたばかりでなく、今日の国際的スケトウダラ研究の礎として国内外で高く評価されています。

200カイリ内漁業資源の再開発と資源管理が着目されるようになってからは、先生は北海道周辺海域の底魚資源研究を精力的に展開し、それらの再生

産機構に関わる多数の論文を公表されました。

学外では、水産庁の漁業監督官、北陸沿岸地域研究検討委員会委員、TAC制度実施事業検討委員、北海道の環境影響評価審議会専門委員、トロール漁船操業影響調査研究実行委員会委員、連合海区漁業調整委員会知事選任委員、漁業士制度運営委員会委員、函館地方海難審判庁参審員、北水協会理事長、青森県の日本海地域資源培養管理協議会委員、太平洋地域広域資源管理推進協議会委員等の要職を歴任し、国と地域の漁業発展にも大きく寄与されました。

先生の永年にわたるご指導・ご貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

名誉教授 ^{さいとう かつまさ} 斎藤 勝政 氏
(享年87歳)



名誉教授 斎藤勝政先生が平成30年12月26日にご逝去されました。

先生は昭和6年に深川市に生まれ、昭和25年に東北大学理学部に入学、昭和31年に通商産業省工業技術院電気試験所に入所後、北海道大学助教授を経て、昭和45年5月に工学部精密工学科の教授に就任されました。在職中は、米国カーネギーメロン大学やベルギー

ルーバン大学での在外研究を含め、平成7年3月にご退官されるまで生産工学、特に金型の先端的製造技術の教育と研究に努め、同年4月に本学名誉教授となりました。ご退官後も、平成7年4月から平成12年3月まで群馬職業能力開発短期大学校長を、また平成12年6月から平成20年6月まで株式会社ぐんま産業高度化センター代表取締役を務められ、その間、多くの学生や企業技術者の指導・教育にもあたられました。

先生は、自動車や家電などの製造に欠くことのできない金型の製造技術に国内でいち早く着目し、この技術を工学の研究対象として捉え、複雑形状の金型を高精度・高能率に製造できる多くの先駆的な加工装置、計測装置、ソフトウェア技術、光造形技術などの研

究開発に力を注ぎ、精密工学会賞などの著名な業績を数多く挙げられ、金型製造技術を学術研究分野として先駆的に切り拓かれるとともに、その技術革新に貢献されました。また、その技術を多くの学生や企業技術者に教育され、その後の金型産業界の中心的技術者の人材育成にも尽力されました。さらに、精密工学会副会長や型技術協会副会長をはじめ関連学協会の役員も多数歴任されました。これらのご功績に対し、平成23年春には瑞宝中綬章を受章されております。

ここに斎藤先生の生前のご功績に敬意を表し、多大なるご貢献に感謝申し上げます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

編集メモ

●数十年ぶりの「強烈な寒気」の影響で、北海道では今月上旬、記録的に寒い日が続きました。同じ頃に開催された、冬の札幌の一大イベントである「さっぽろ雪祭り」には、海外などから多くの方が訪れていましたが、本格的な北海道の寒さに驚かれた人も多

かったのではないのでしょうか。

●25日（月）・26日（火）には、一般入試（前期日程）が行われました。試験日の前には多くの受験生が訪れ、試験に備えて会場の下見を念入りに行っている様子が見られました。



2015.2.11 室蘭本線 静狩～小幌（長万部町）

北の鉄道風景 71 特急北斗，一瞬の邂逅

札幌駅と函館駅を結ぶ特急列車〈北斗〉。その運行が始まったのは1965年であって、当初は札幌駅を経由して、函館駅－旭川駅間を走る特急列車であった。その後、1972年から函館駅－札幌駅間での運行となり、現在に至っている。1988年以前は青函連絡船に接続することで、青函トンネルの開業後は青森方面への列車に接続することで、道内－本州間の旅客輸送を担いつづけてきた列車である。その使命は、北海道新幹線が函館まで開業した今も変わらず、現在

は1日あたり12往復が運行されている。写真は静狩駅東方で離合する、札幌行〈スーパー北斗〉と、函館行〈北斗〉である。列車の背後に見える雪原は、現在、北海道新幹線「内浦トンネル」の工事ヤードとなっている。十数年後、ここに新幹線が走り始めるとき、特急北斗の運行形態はどうなるのだろうか。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ② No.779 平成31年2月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html